



ていこうという意識は男子学生のほうが強いと思うのですが、勉強の部分で努力が足りないために、女子学生にそっぽを向かれてしまうようです。「男の意地を持って！」と言っているんですがね（笑）。少子化の影響で、家庭で男の子が大事にされ過ぎ

念にしてきた「全人教育」そのものです。

— 具体的には。

村田 世界が日本の若者に求めているのは「主体性」と「チャレンジ精神」です。その部分を強化できるプログラムをSGU



平成22年の開設以来、全国屈指の難関学部として注目をあびる国際学部。SGUの中核として期待される



1.2 実践型“世界市民”育成プログラムは、ボラ開発途上国におけるボランティア活動や交換留学、海外インターンシップなどを体験し、世界をより良いものに変えるために、必要な知識とスキル、国際性、実践力を身につけることを目的にした開学大独自のプログラム  
3. 海外の名門大学とのネットワークも開学大学の強み。写真はトロント大学(カナダ)

ているのが原因かなと私は思っています。

今が第一の改革の時

— 関西学院大学はSGU（スーパーグローバル大学事業）に申請をしているそうですね。どういうものですか。

村田 文部科学省が進める事業の一つで、世界の大学ランキングトップ100入りを目指す力のある大学10校と、これまでの実績を基にさらにグローバル化を牽引していく力のある大学20校が選出されます。

— 選出される可能性はありますか

申請にも組み込んでいます。学びにはモチベーションが必要ですが、例えば経済学部生に、勉強している経済学の全体像が4年間で見えてくるなどあり得ないことです。そこで地元の商店街の活性化、西宮市の市政方針を考えるなど体験型学習を取り入れてきました。一つの目標に対して知識を吸収しようとしたときに、初めて専門的な勉強をしようというモチベーションが生まれ、主体性につながるものです。またダブルチャレンジを提唱しています。学部の勉強と留学やアクティブラーニングをダブルでチャレンジ、また学部の枠を越えた2分野を専攻して学位をダブルで取るなど、全員がダブルチャレンジをしなくてはならないというものです。同時に2つのことを進めることにより、互換性のある新しい発想が生まれます。

大学そのものをグローバル化させる

— 今後の関西学院大学について。

か。また、そのメリットは。

村田 それはまだ分かりませんが、関西学院大学は、同じく文科省が進めるグローバル人材育成推進事業で選ばれた11校の中の1校です。また、世界展開力強化事業にも選ばれていますので、グローバル化に関しては着々と実績を上げてきていることは確かです。SGUに選出されれば日本の国公私立大学のトップ30校に入るといえることです。それもさることながら、関西学院大学にとっては25年後を見据え、学部教育のレベルで世界の大学と肩を並べ教育の質とそれに見合う学生の輩出を保証できるかという大学改革だと思っています。学生運動のさなかの1970年代、キリスト教主義を基に関西学院大学は大学改革を行いました。それから40年、今が第二の大学改革の時期です。教育の本質は知識や技能を教えるだけではなく、経験に基づき「どう生きるべきか」を考える力をつけ、「一生かけて学んでいく」ための基礎を教えることにあります。関西学院大学が理

村田 来年度から理工学部に、従来の基礎的な研究に加え、応用系の研究を行う3学科を新設します。社会に役立つことももちろんですが、より実践的な研究により学生たちの目に成果がはっきり見えます。それによってモチベーションを高めようというものです。昨年は神戸三田キャンパス、今年は西宮上ヶ原にラーニング・コモンズを立ち上げました。これからはコモンズが大きな役割を果たすと考えています。

本学学生の約7割を、阪神間で育った子どもたちが占めています。均質的な文化の中で育ってきたということですね。豊かで外へ出て行く必要のない日本の縮図とも言えるでしょう。居心地が良いという本学の強みでもあるのですが、大学そのものをグローバル化させることが課題でもあります。これを達成できれば、さらに大きな強みにできると考えています。

— 本日はありがとうございました。